



# 旭中通信

練馬区立旭丘中学校  
学校通信 7月号  
令和2年7月1日発行

## 「これから」の<sup>と き</sup>時代を生きる君たちへ

校長 渡邊 重幸

上記のメッセージはメニコ・スキラーチェ校長先生が、新型コロナウイルスが蔓延し、休校を伝えたときのものです。スキラーチェ校長先生はイタリア・ミラノの理科系名門校アレッサンドロ・ヴォルタ高校の校長先生です。現在は本にもなり多くの方に読まれています。

内容の一部を紹介します。

- ・1630年、ミラノを襲ったペストの流行について書かれたマンゾーニの小説の一節を読んでいると今日の新聞を読んでいるような気にさせられます。（それほど、蔓延してきているということです。）
  - ・冷静さを保ち、集団のパニックに巻き込まれないことが大切です。そして十分な予防をしたうえで普通の生活を送ってください。
  - ・せっかく自粛しているのですから、散歩したり、良質な本を読んだりしてください。
- ※社会生活や人間関係の荒廃、市民生活における野蛮こそが、新型コロナウイルスがもたらす最大の脅威です。
- ※目に見えない敵からの脅威を感じているときは、仲間なのに潜在的な侵略者だと見なしてしまう危険があります。
- ・ペストが流行した時代と違い、今は進歩した現代医学があります。それはさらなる進歩を続けており、信頼性もあります。合理的な思考で私たちがもつ貴重な財産である人間性と社会とを守っていきましょう。

6月1日より分散登校が始まり、縮減したものの6月19日には無事入学式を終えることができました。学校生活も徐々に「新しい生活様式」が定着し、22日からは平常授業を行っています。2か月の家庭学習の成果もあり、教科によっては本来の学習計画に近づいているものもあります。（生徒の理解度を最優先に指導しています。）ということで、学習面は新たな計画に沿って順調に進んでいます。一方制限された中で心配されることは心の成長です。最も大切なことは、スキラーチェ校長先生が示した(※)ように「人間らしい思いやりを忘れないこと」です。

スキラーチェ校長先生は日本の生徒にもメッセージを送っているので紹介します。

### ーこの痛みはいつか、皆さんの財産になるでしょうー

この危機を乗り越えたとき、皆さんはきっと変わっていることでしょう。よい方向に変わることができるかもしれません。もっと自覚をもった、もっと素晴らしい人間になることができるかもしれません。本を読み、考えることで、この孤独な長い日々を無駄に失われた時間にせず、有益で素晴らしい時間にしましょう。イタリアの生徒たちにとっても、日本の生徒たちにとっても、そうあってほしいと思います。皆さんの幸運を、心よりお祈りいたします。

ドメニコ・スキラーチェ

＜入学式＞



＜学校生活＞



＜修学旅行、移動教室について＞

6月29日にお知らせしたとおり、3年生の修学旅行をはじめ、2年生、D組の移動教室の中止が決定しました。練馬区教育委員会と区内全中学校の校長で時間をかけて検討をしてきました。特に3年生は今までの事前学習や準備、修学旅行に対する生徒の思いなどを考えれば何とか行かせてあげたい、これが私たちの率直な思いです。しかし、皆さんの安全安心、命を守ることの手立てを万全にすることができないままの実施には踏み切れませんでした。また、これ以上決断を引き延ばすことによる様々な影響を考え、この時点での中止を判断いたしました。

担任からお知らせを配付され、説明を受けている3年生の皆さんの様子に涙が出そうになりました。昨年度末の合唱コンクールの中止から始まり、自粛生活、部活動の制限をしている中での「修学旅行中止」は悔しい思いでいっぱいだったと思います。残念な気持ちは教職員一同、皆さんと同じです。今後は校内で、達成感を感じることもできるもの、仲間と一緒に頑張ってきたと思えることを一緒に企画していきたいと思います。

保護者の皆様、今後も状況により、行事の延期・中止を余儀なくされる可能性もあります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。